

図 表



## 目 表

### 1) 我が国における高等教育をめぐる現状等

1-1	高等教育機関の数	145
1-2	高等教育機関の学生数	146
1-3	18歳人口及び高等教育機関への入学者数・進学率等の推移	147
1-4	大学型高等教育への進学率の国際比較	148
1-5	新規学卒就職者（事務従事者）の学歴構成	149
1-6	親の子どもへの期待（進ませたい学校段階）	150
1-7	15歳の生徒の進学希望の国際比較	151
1-8	人口千人当たりの高等教育機関の在学者数の国際比較	152
1-9	25歳以上の入学者の割合（大学型高等教育機関）の国際比較	154
1-10	留学生受入れ状況の国際比較	155

### 2) 学位の授与、学修の評価

2-1	所定の修業年限で大学を卒業した者の割合の推移	159
2-2	大学型高等教育修了率の国際比較	160
2-3	学位に付記する専攻分野の名称の数の推移	161

### 3) 教育内容・方法等

3-1	大学改革の進展（例）	165
3-2	設置者別 関係学科別 学生数の割合	168
3-3	分野別にみた学士課程カリキュラム編成の特徴	169
3-4	分野別 学生の学習態度等	171
3-5	学生の勉強時間に関する調査結果	176
3-6	学校段階別の学習時間	177
3-7	分野別の学習時間	178
3-8	学部系統別 サークル・アルバイト活動の状況（1週間）	179
3-9	アルバイト従事状況の推移	180
3-10	学期中の活動内容の国際比較（1週間）	181
3-11	学系別での教育力向上施策の機能度の状況	182
3-12	分野別 教員一人当たり学生数	183
3-13	教員一人当たり学生数の国際比較	184
3-14	シラバスの作成状況	185
3-15	セメスター制の採用状況	185
3-16	厳格な成績評価の実施	186

#### 4) 高等学校との接続

4-1	過去10年間における入学定員と入学者数の推移	189
4-2	志願倍率の推移	189
4-3	私立大学の志願倍率・合格率・入学定員充足の状況	190
4-4	大学入試の現状	191
4-5	入試方法別入学者数の推移	192
4-6	入試方法別入学者数の割合	193
4-7	平成19年度国公立別大学入試方法入学者数の割合	194
4-8	AO入試の実施状況の推移	195
4-9	平成19年度AO入試の実施状況	196
4-10	推薦入試の実施状況の推移	198
4-11	平成19年度推薦入試の実施状況	199
4-12	高校での学習状況と大学生の意識	201
4-13	進路別高校3年生の勉強時間	202
4-14	大学生の学力低下に関する教員の意識	203
4-15	高等学校での履修状況への配慮	204
4-16	初年次教育の重要度	205

#### 5) 教職員の職能開発

5-1	設置者別 本務教員数の推移	209
5-2	各課程におけるFDの制度化の経緯	210
5-3	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況	211
5-4	学生による授業評価の実施状況	212
5-5	教員の教育面の業績評価の実施状況	214
5-6	大学教員及びFDの在り方に関する調査研究の動向	215
5-7	設置者別 本務職員数の推移	218
5-8	設置者別 本務職員一人当たり学生数の推移	219
5-9	設置者別 本務教員一人当たり本務職員数の推移	219
5-10	職員の能力開発に関する意識と実態	220
5-11	大学職員の学歴構成・勤続年数等	222
5-12	主要国における研究者一人当たりの研究支援者数	223

#### 6) 質保証システム

6-1	大学評価について	227
-----	----------	-----

#### 7) その他

7-1	学生・保護者の教育費負担の現状	233
7-2	企業の採用活動における諸課題	234

## 1) 我が国における高等教育をめぐる現状等



## 1-1 高等教育機関の数

区分	計	大 学		短期大学	高等専門学校	専修学校 (専門課程)
			うち大学院を 置く大学			
計	1,254	756	598	434	64	2,995
(%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)
国立	144	87	86	2	55	11
(%)	(11.5%)	(11.5%)	(14.4%)	(0.5%)	(85.9%)	(0.4%)
公立	129	89	76	34	6	202
(%)	(10.3%)	(11.8%)	(12.7%)	(7.8%)	(9.4%)	(6.7%)
私立	981	580	436	398	3	2,782
(%)	(78.2%)	(76.7%)	(72.9%)	(91.7%)	(4.7%)	(92.9%)

(平成19年5月1日現在)

(注1) 私立には株式会社立大学(7校)を含む。

(注2) 通信教育のみを行う大学(私立5校(放送大学含む))及び短大(私立1校)を除く。

(注3) 学生募集停止をしている機関を含む。なお、大学、短大、高専の募集を停止している機関数は以下のとおり。

大学	国立：0	公立：13	私立：2	短大	国立：2	公立：10	私立：33
高専	国立：0	公立：3	私立：0				

(出典) 文部科学省「学校基本調査」(平成19年度)

## 1-2 高等教育機関の学生数

(単位：人 ( ) 内は構成比)

区分	計	大学院	小計	大学	短期大学	高等専門 学校	通信教育	専修学校 (専門課程)
				(学部)	(本科)	(4・5年次)		
計	3,165,775	262,113	2,716,134	2,514,228	179,958	21,948	187,528	627,397
(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
国立	631,053	153,900	477,153	457,752	108	19,293		632
(%)	(19.9)	(58.7)	(17.6)	(18.1)	(0.1)	(87.9)		(0.1)
公立	138,525	14,471	124,054	111,966	10,340	1,748		27,265
(%)	(4.4)	(5.5)	(4.6)	(4.5)	(5.7)	(8.0)		(4.3)
私立	2,396,197	93,742	2,114,927	1,944,510	169,510	907	187,528	599,500
(%)	(75.7)	(35.8)	(77.9)	(77.3)	(94.2)	(4.1)	(100.0)	(95.6)

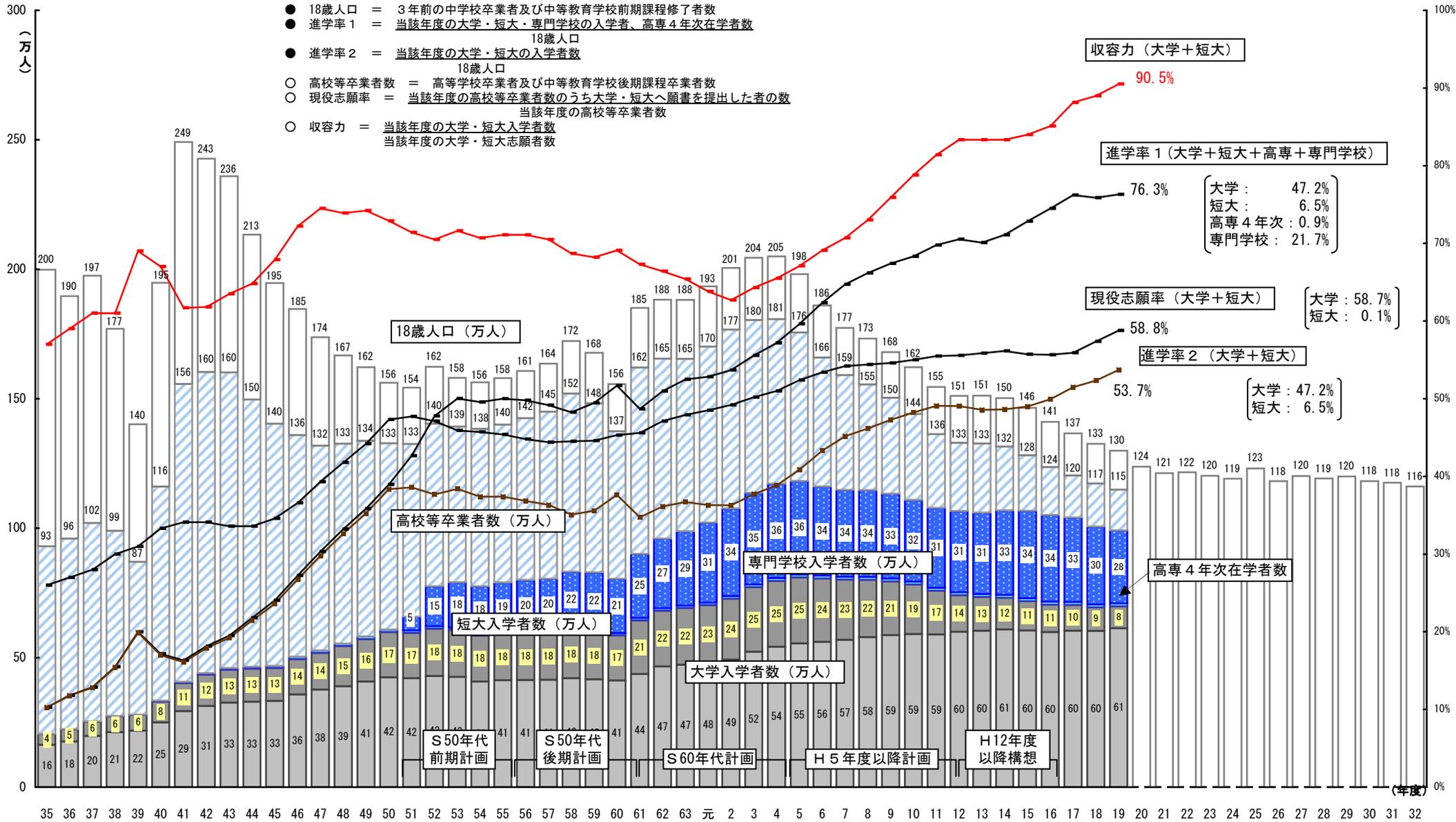
(平成19年5月1日現在)

(注1) 学生数には、「専攻科」「別科」「その他」の学生を含まない。

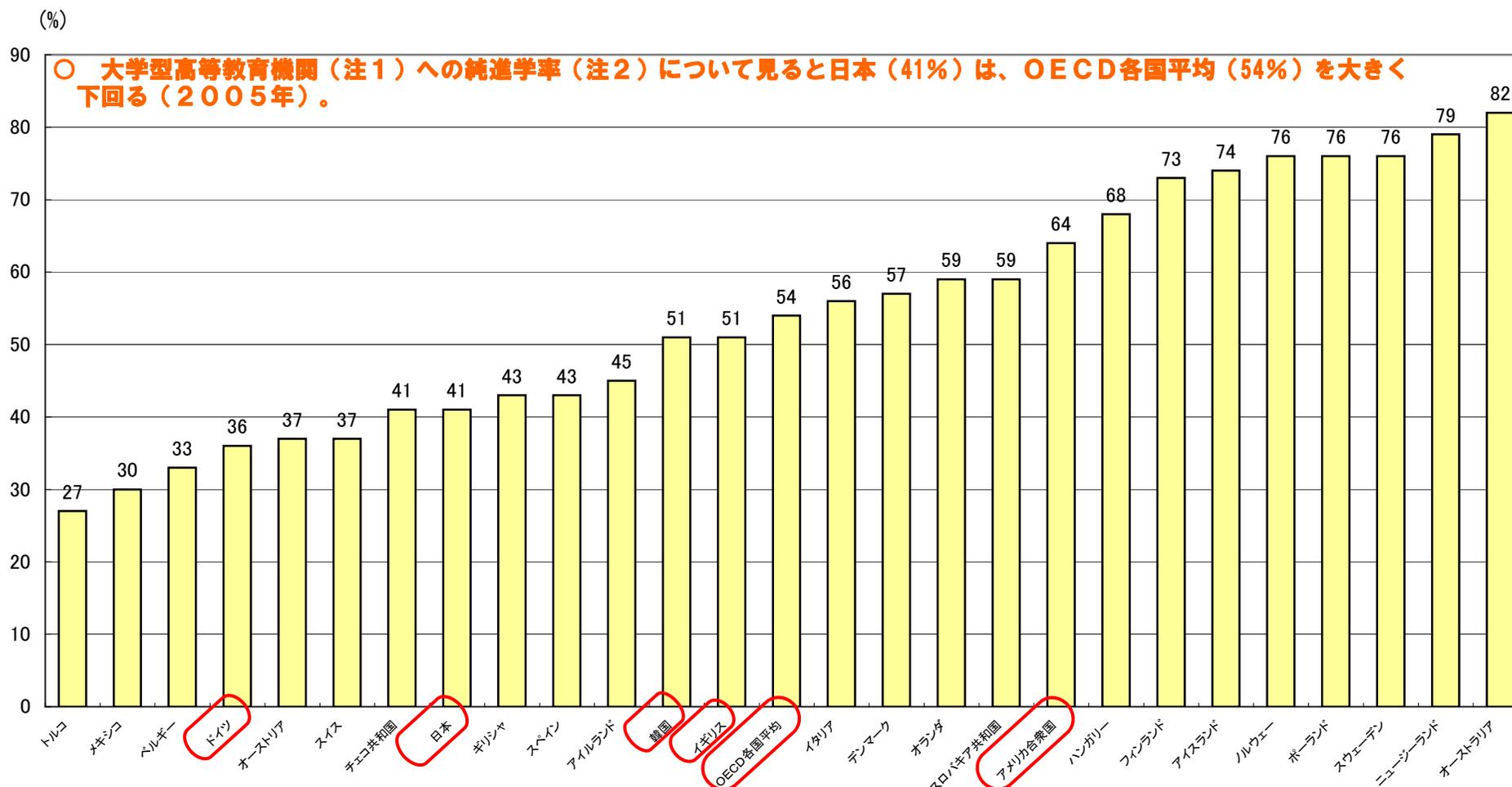
(注2) 上記の外、放送大学学園立の学生数が87,042人(含大学院)

(出典) 文部科学省「学校基本調査」(平成19年度)

# 1-3 18歳人口及び高等教育機関への入学者数・進学率等の推移



## 1-4 大学型高等教育への進学率の国際比較



注1 「大学型高等教育 (ISCED5A)」とは、主として理論中心・研究準備型プログラムで、通算教育年数がフルタイム換算で3年間（一般的には4年以上が中心）のもの（日本では、学士・修士に相当）。ただし、ここでは、アメリカに関しては、非大学型に分類されるコミュニティカレッジを含む。

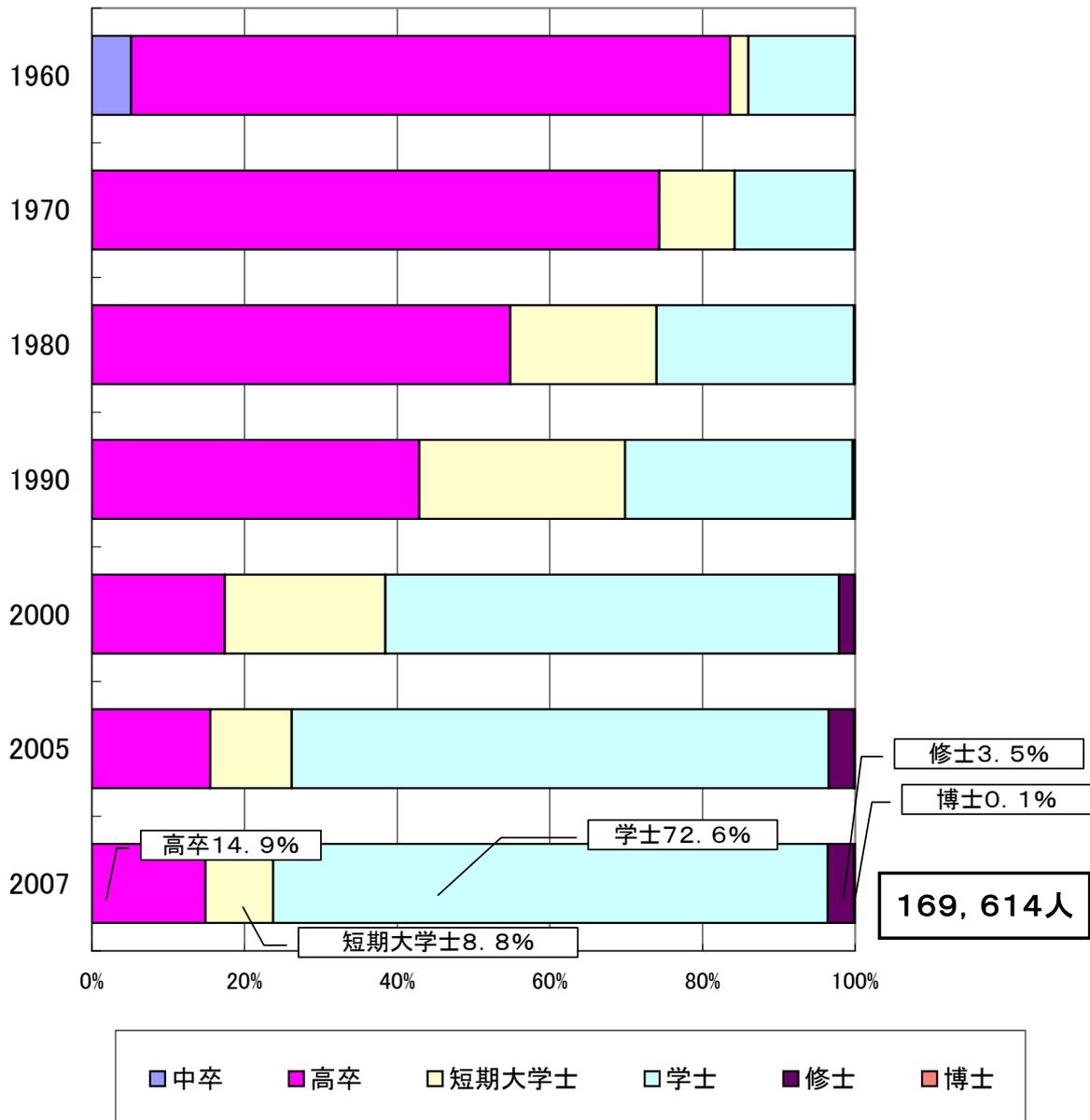
注2 「純進学率」とは、各国において高等教育に進学する人数の割合を示し、年齢別の純進学率をすべての年齢にわたって合計した値。「年齢別の純進学率」とは、各年齢人口のうち、当該年齢で高等教育期間に初めて進学した学生の割合。

日本は、純進学率が計上できないため、「大学学部入学者／18～24歳の平均人口」により算出。

(出典) OECD「Education at a Glance 2007」

## 1-5 新規学卒就職者（事務従事者）の学歴構成

○ 新規学卒就職者の中心となる事務従事者については、約7割が学士取得者



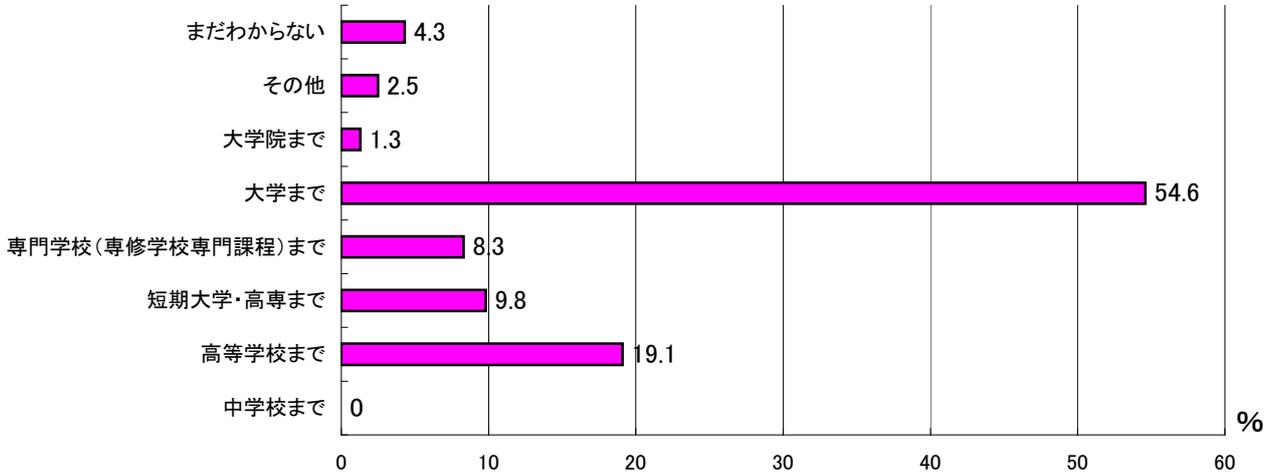
※ 「事務従事者」は、全体の就職者（約72万人）のうち、約23%（約17万人）を占める（2007年度）。「事務従事者」とは、一般に課長（課長相当職を含む）以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・会計・調査・企画などの仕事、運輸・通信・生産関連・営業販売・外勤に関する事務及び事務用機器の操作の仕事に従事するものをいう。一般事務従事者、速記者、タイピスト、電子計算機オペレーターキーパンチャー、秘書、出改札係、電気・ガス等の検針・集金人、営業・販売事務員（営業・販売事務員、販売伝票記録整理員）等。

（出典）文部科学省「学校基本調査」

## 1-6 親の子どもへの期待（進ませたい学校段階）

### ◆ 進ませたい学校段階

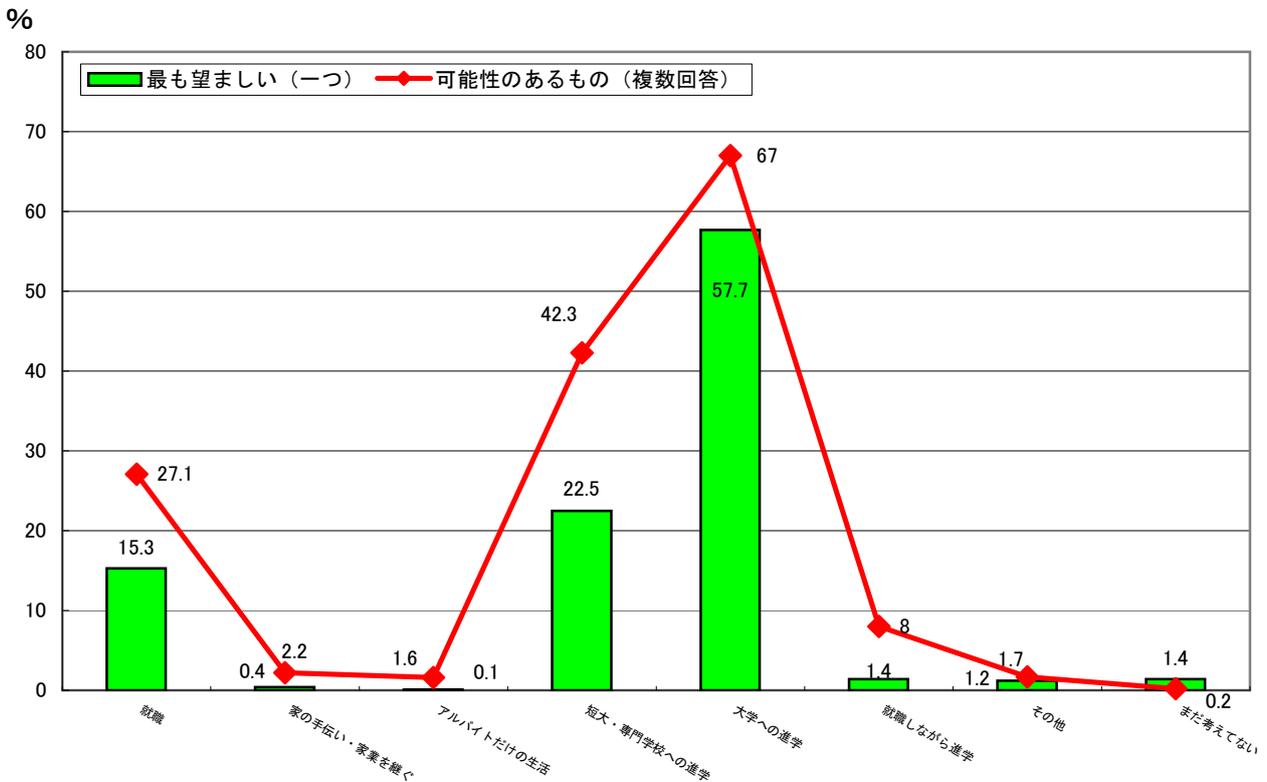
Q：自分の子どもを、どの段階の学校まで進ませたいと思いますか。



【調査対象】 小学校4年生から中学校3年生の親998名  
 (出典) 内閣府「日本の青少年の生活と意識」(2000)

### ◆ 高校卒業後の進路について

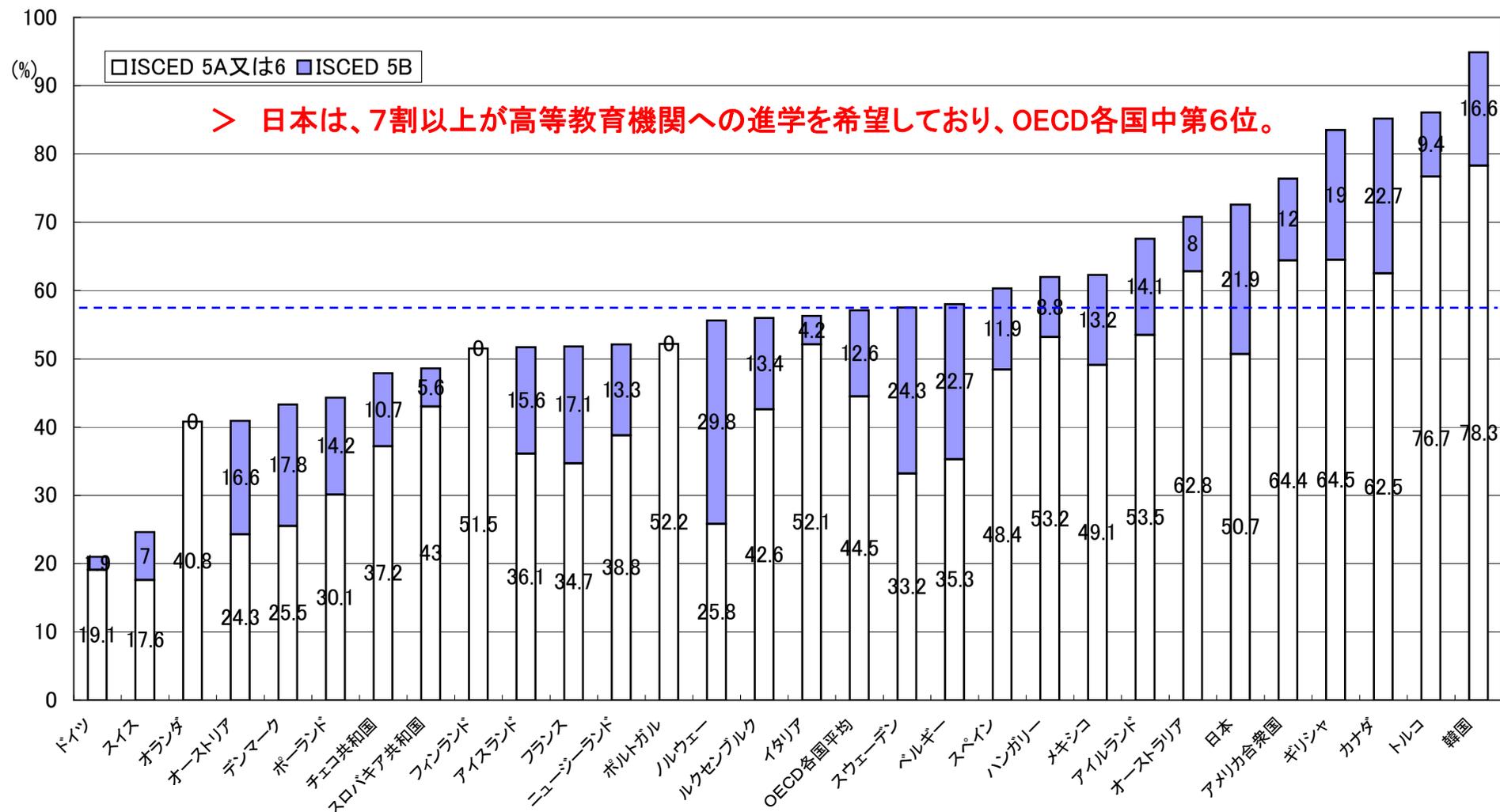
Q：卒業したらどのような進路に進んで欲しいと考えておられますか。



【調査対象】 全国の高校3年生の保護者4000人(父親9.0%、母親90.8%、その他0.2%)

(出典) 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター  
 「高校生の進路についての調査」(2005)

# 1-7 15歳の生徒の進学希望の国際比較



※ 2003年に実施された「生徒の学習達成度調査(PISA)」のデータより、15歳児が最終学歴としてどの教育段階を考えているのかの割合を示したもの。  
 ※ 「ISCED5A(大学型高等教育)」とは、主として理論中心・研究準備型プログラムで、通年教育年数がフルタイム換算で3年間(一般的には4年以上が中心)のもの(日本では学士・修士に相当)。  
 「ISCED6(上級研究学位プログラム)」とは、博士号などの上位の研究資格の取得に直接結びつく高等教育プログラムで、通年教育年数がフルタイム換算で3年間(実際にはこれより長いことが多い)のもの(日本では博士に相当)。「ISCED5B(非大学型高等教育)」とは、就職に直接結びつく実践的、技術的及び職業技能に焦点を絞ったプログラムで、通算教育年数がフルタイム換算で最低2年間(日本では短大・高専・専修学校専門課程に相当)。

## 1-8 人口千人当たりの高等教育機関の在学者数の国際比較

**人口比では日本はアメリカの半分以下（大学院は1/4以下）**

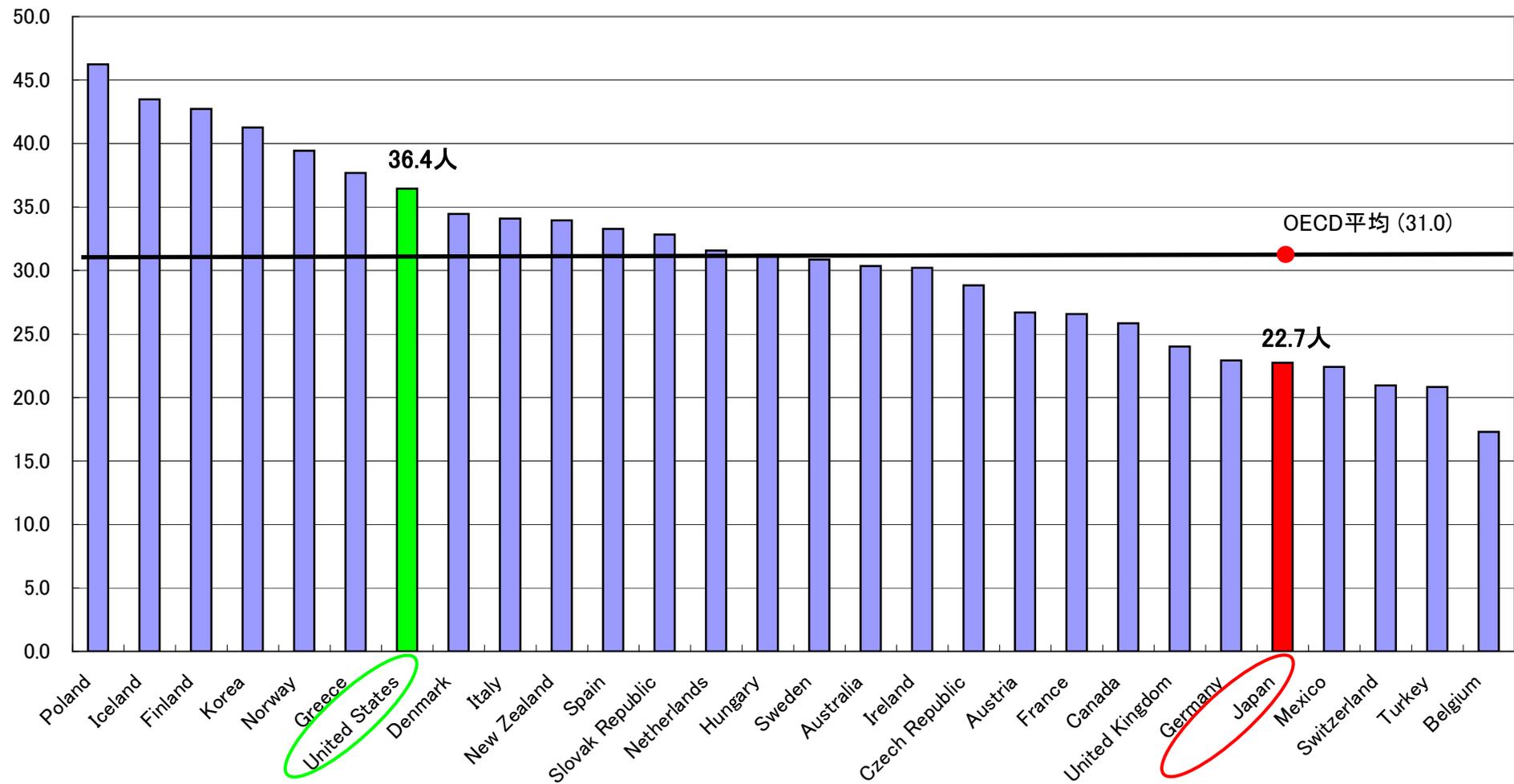
区 分		アメリカ合衆国	イギリス	フランス	日 本
全高等教育機関在学者の人口比	1994年 (平成6年)	人 31.3 (54.8)	人 19.7 (29.7)	人 36.5	人 23.7
	2003年 (平成15年)	35.5 (58.1)	24.0 (41.1)	36.9	23.6
うち、 大学院在学者の人口比	1994年 (平成6年)	人 3.72 (7.74)	人 2.23 (5.24)	人 3.65	人 1.11
	2003年 (平成15年)	4.39 (8.34)	3.71 (8.89)	3.99	1.81
全高等教育機関学生数	1994年 (平成6年)	千人 8,138 (14,279)	千人 1,153 (1,734)	千人 2,108.4	千人 2,965
	2003年 (平成15年)	10,312 (16,900)	1,428.7 (2,466.1)	2,219.7	3,015
うち、 大学院学生数	1994年 (平成6年)	人 969,070 (2,016,182)	人 130,000 (284,000)	人 210,763	人 138,752
	2003年 (平成15年)	1,276,923 (2,426,587)	221,100 (529,400)	240,332	231,489
全 人 口	1994年 (平成6年)	千人 260,341	千人 58,395	千人 57,779	千人 125,034
	2003年 (平成15年)	290,789	59,554	60,200	127,619

(注) ( ) 内はパートタイム学生（フルタイム換算ではない）を含めた数値である。

※ 日本の在学者は、大学院、大学学部・専攻科・別科、短期大学本科・専攻科・別科及び高等専門学校4、5学年の在学者

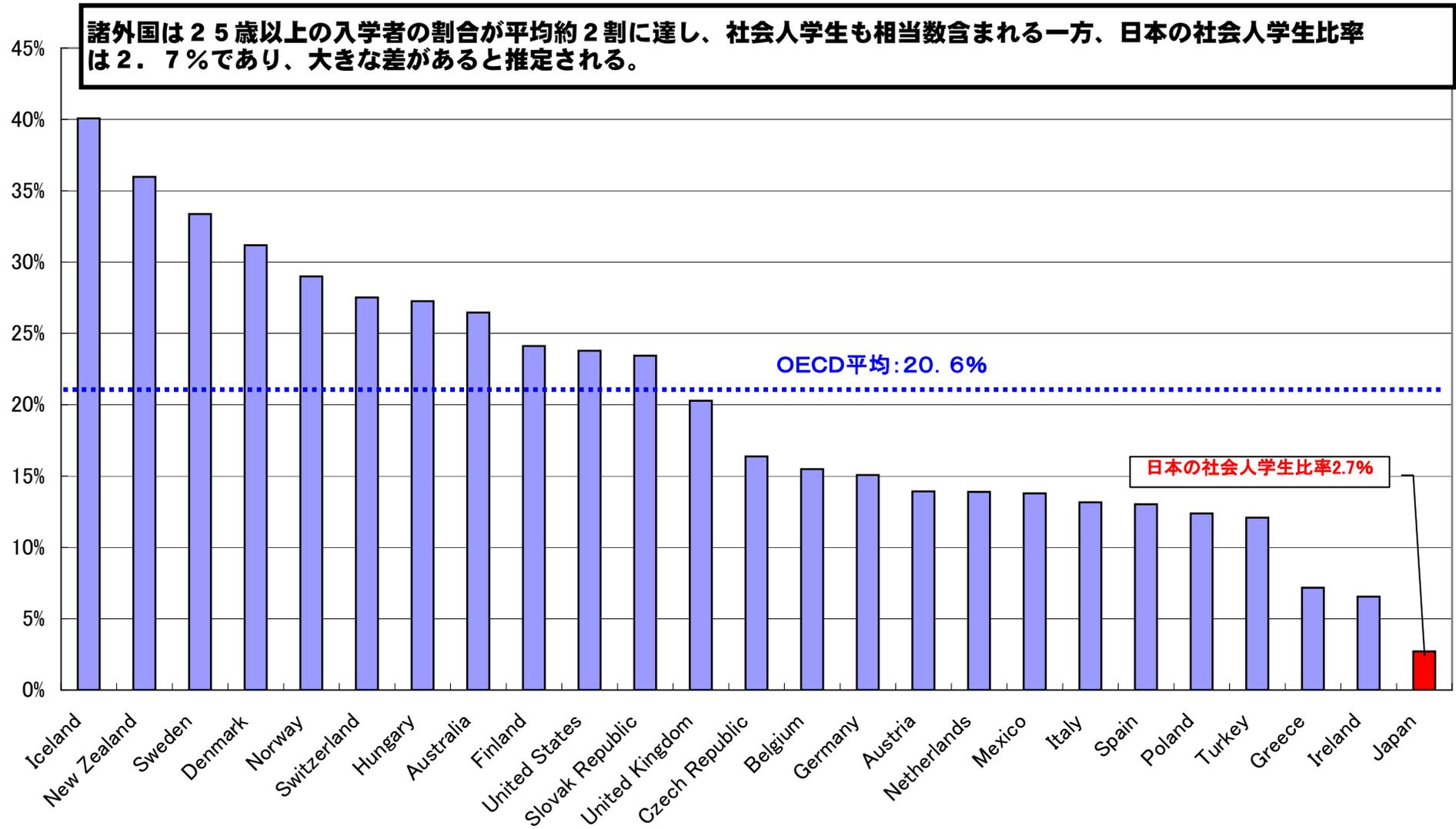
(出典) 文部科学省「教育指標の国際比較」

○ 人口千人当たりの在学者数の国際比較【学部+大学院（FTE）】（2005年）



出典: OECD教育データベース

1-9 25歳以上の入学者の割合(大学型高等教育機関)の国際比較



出典: OECD教育データベース(2005年)。ただし、日本の数値については、「学校基本調査」及び文部科学省調べによる社会人入学生数

# 1-10 留学生受入れ状況の国際比較

## ○ 留学生比率の国際比較

	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オーストラリア	日本
留学生 (受入れ)数(人)	564,766 (2005年)	356,080 (2005年)	248,357 (2005年)	265,039 (2005年)	228,555 (2004年)	118,498 (2007年)
留学生比率	5.5%	24.9%	12.3%	11.9%	24.2%	3.3%

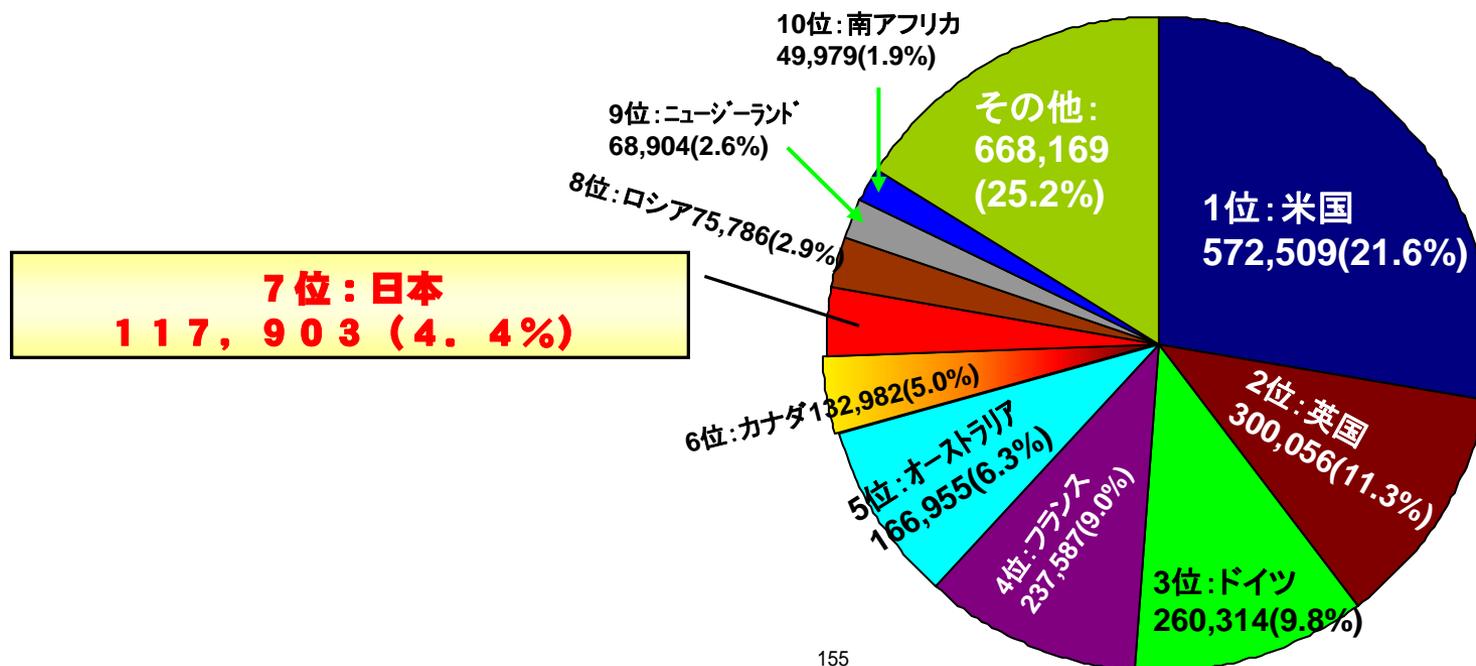


諸外国に比して低水準

(注)オーストラリアについては、海外で設置された施設で受入れている学生数を含む(下記のグラフでは含まない)

※ 文部科学省、日本学生支援機構、Institute of International Education(米)、Higher Education Statistics Agency(英)、ドイツ連邦統計庁、Deutscher Akademischer Austausch Dienst(独)、フランス教育省、フランス外務省、Australian Vice Chancellor's Committee(豪)、オーストラリア教育科学訓練省調べ

## ○ 受入国別留学生数の状況(総計:2,651,144人)

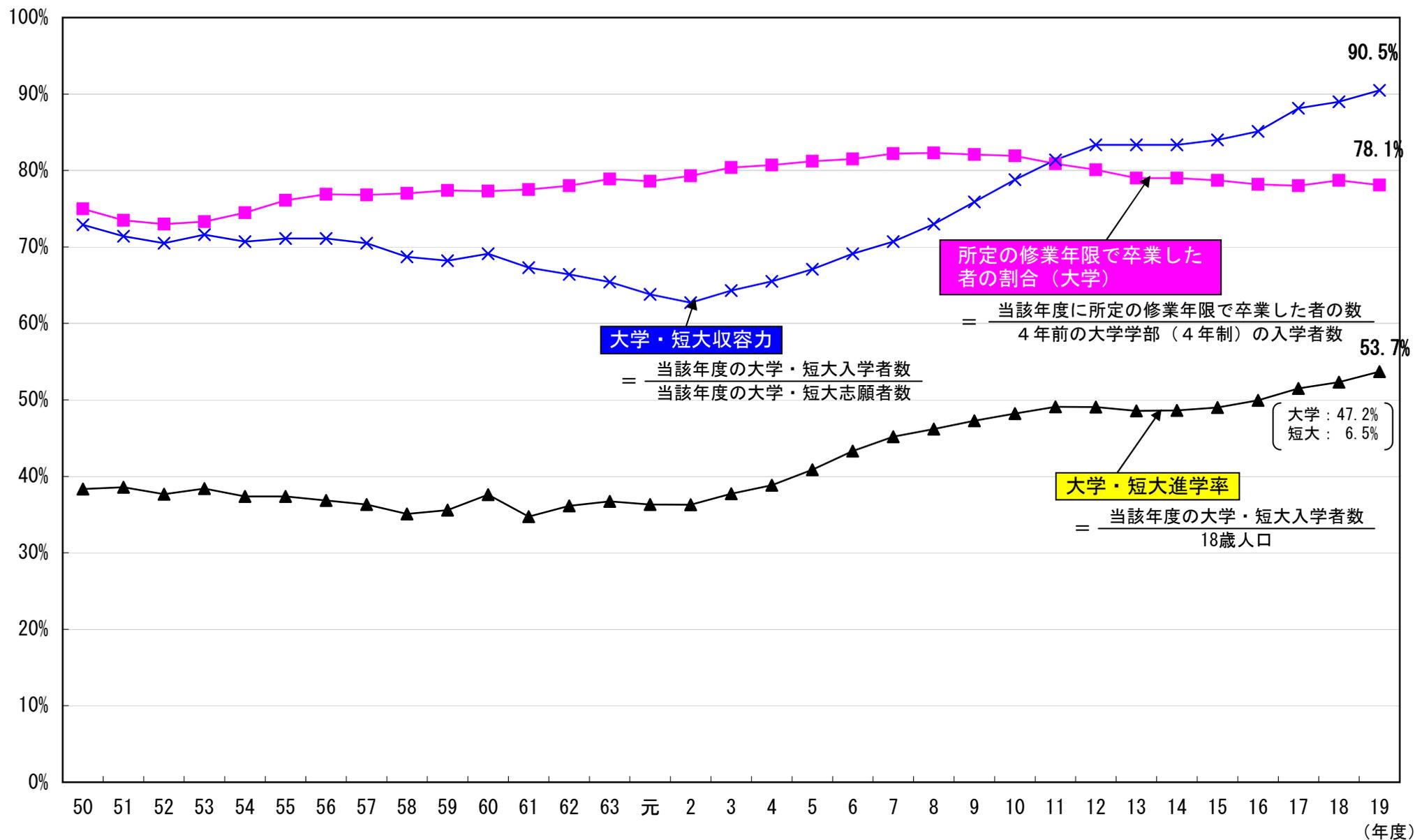




## 2) 学位の授与、学修の評価

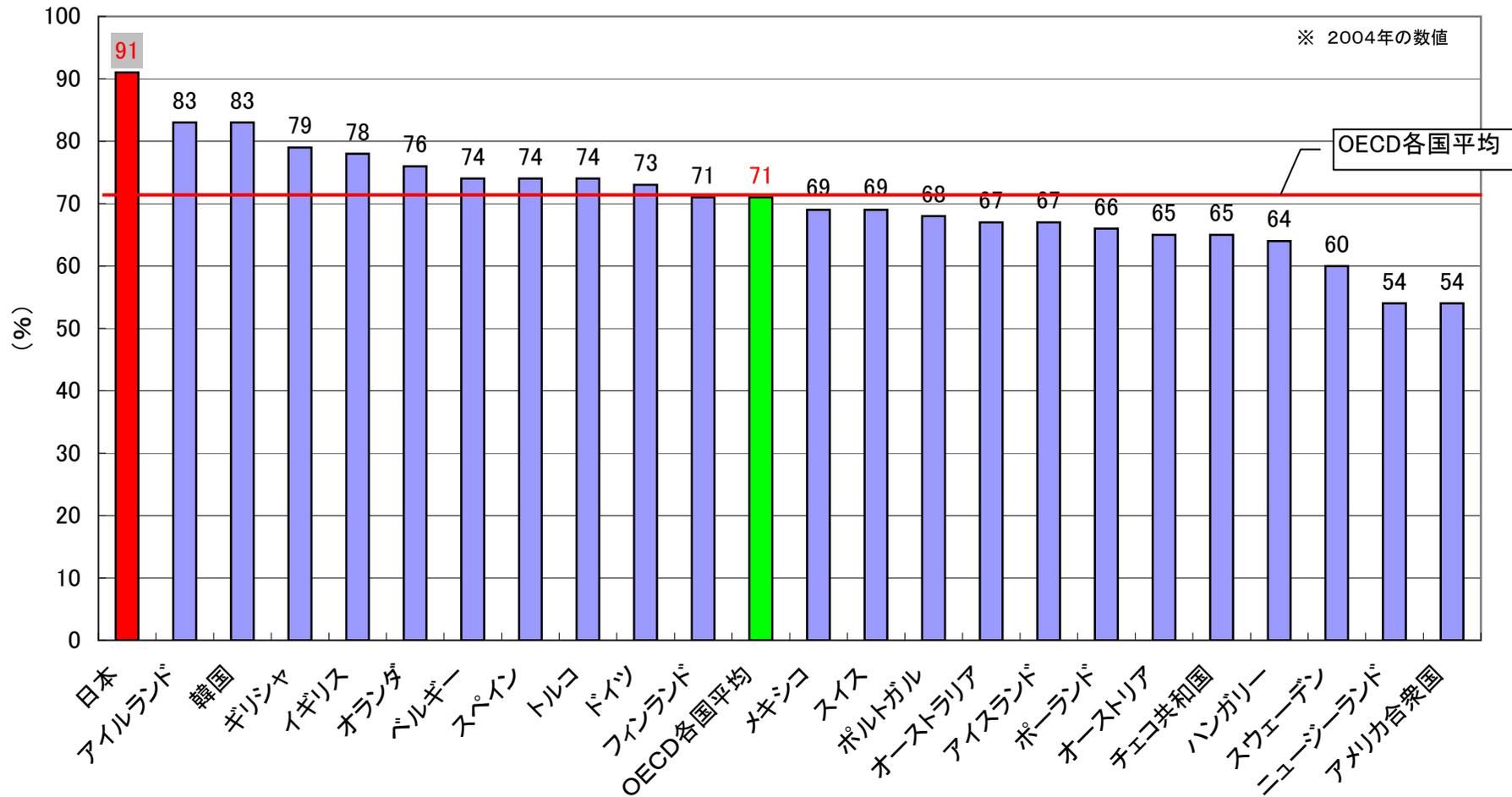


## 2-1 所定の修業年限で大学を卒業した者の割合の推移



※「所定の修業年限で卒業した者の割合」は修業年限が4年である大学学部の入学者数；卒業者数をもとに算出しており、4年以外の修業年限の学部や短期大学については含まれていない。  
 文部科学省「学校基本調査」より作成（但し、平成19年度の数値は「学校基本調査速報」（2007）を使用）

## 2-2 大学型高等教育修了率の国際比較



(注1) 「大学型高等教育(ISCED5A)」とは、主として理論中心・研究準備型プログラムで、通年教育年数がフルタイム換算で3年間(一般的には4年以上が中心)のもの(日本では、学士・修士に相当)。

(注2) 大学型高等教育の修了率は、大学型高等教育の卒業生数を、その標準的な入学年(修業年限)の入学者数で除した値である。

(出典) OECD「Education at a Glance(2007)」

### 2-3 学位に付記する専攻分野の名称の数の推移

平成	11	12	13	14	15	16	17
学士	382	444	451	486	523	556	<u>580</u>
修士	277	310	324	362	411	440	467
専門職学位	188	216	240	260	288	296	320
博士	—	—	—	—	—	22	30

(注) 本調査結果は、(独) 大学評価・学位授与機構が、全国の国公立大学に対して、学位を授与する際に付記している専攻分野の名称について調査し、その数を集計したもの。平成17年の場合、726大学に対し調査を実施し、回答数が664校(集計率91%)。

